**男体山山行**

**日時　平成24年10月24日、25日**

**場所　栃木県**

**参加　山行クラブ　4名**

**10月24日**

**今回の登山は比較的時間に余裕を持たせ、前泊し翌日登山をする計画だ。10時50分浅草から東部スカイツリー線で日光駅に向かう。普通車で行くと日光には2時間半かかり13時半ごろに日光駅に到着。そこからバスで中禅寺温泉に向かう。紅葉の季節で観光客が多い。通常50分近くで到着するところであるが、渋滞が激しく結局2時間30分もかかってしまい中禅寺温泉に着いたのが16時過ぎになった。当初は時間に余裕があるため少し足を伸ばして付近を散策するつもりであったが、とても時間がとれず結局華厳の滝、中禅寺湖付近を散策するに留まった。宿泊は停留所近くの「すぎもと館」という宿で、登山客専門の宿でとても登山客の要望を慮った配慮で満足いく宿でした。**

**10月25日**

**6時出発。宿の車で志津乗越まで約３０分の行程。道路は予想に反してそれほど悪くはない。6:30に登山開始、天候は良好だが気温は低い。多分10度以下であったろう。志津乗越の標高は1785ｍ、比較的穏やかな登山道を登る。森林の中を進むので見晴は全くない。途中少しガスや雲が発生して視界を遮った。足元は霜柱が大きく成長していて気温の低さを感じさせた。8合目付近（8:35）では霧氷がすごく美しくしばらく霧氷観察に時間を費やした。9合目に9時ごろ到着。頂上付近はガスに包まれ風も強くこの時点では頂上からの遠望は望めないとほぼあきらめかけていた。しかしその後一気に好転に転換し9:25に頂上に到着したが、全くガスが無くなり素晴らしい天候に変化していた。日光白根山が真白く雪を頂き、その右肩に至仏山が覗え、更に右に目をやると燧ケ岳が2つ頂をくっきり現して存在感を示していた。更に右に目を向けると会津駒ケ岳が真っ白に雪を頂きノッペリとした山姿を呈していた。近くには太郎山、大真名子山、その向こうに小真名子山、その右に女峰山が美しい姿を見せていた。約30分山頂のパノラマを堪能したのち下山開始（10:00）ここから1200ｍを急峻な山道を下ることになる。途中かなり険しい岩稜地帯があり登りも厳しいが下りもかなり厳しい山道だ。10月25日は男体山の閉山日だ。ご神体が山頂の奥ノ院から本宮に移魂する。登山途中に遠くから神事のほら貝の音が聞こえてきたし、下山途中にも本宮のほうからほら貝の音が聞こえてきた。残念ながら時間に間に合わず、神事には遭遇することが出来なかったが、閉山日という記念する日に神山に登れて感激であった。五合目に11:40に到着し昼食を摂る。12:10に出発。13:15に登拝門に到着、既に門は閉止されていたがすぐ横を潜り抜け二荒山神社の境内に到着した。下山して門の付近に来るとそこには靴を洗う場所が設けられていて、能書きに昔はここで履いていた草鞋を新しい草鞋に替えて境内に入ったため、この付近には草鞋の大きな山が出来たと記載されていた。神聖な山の土を下界に持ち込んではならないと言うことらしい。「すぎもと館」で下山後の入浴サービスがあると言うので甘えることにし、13:35に館に到着、入浴後14:15のバスに乗車。時間が早いせいか帰路はスムースな運航で40分余りで日光駅に到着。駅前のおばさんに薦められるまま「食事処　あずま」で反省会を行い15:59発の普通車で帰路についた。帰宅は19:45であった。**

**以上**